

【株式相場レポート】

～今週は市場心理少し回復～

	13日終値	前週末比
日経平均(円)	21,778.74	+211.22
ドル(円)	107.55-56	+0.15
NYダウ(ドル)	24,483.05	+550.29
長期金利(%)	0.030	-0.008
NY原油(ドル)	67.07	+5.01

※NYダウ・NY原油は12日終値、ドル・長期金利は13日15時現在

今週の総括

★シリア情勢緊迫化も

今週のプラス材料

- ・米中通商問題で懸念和らぐ
- ・米FRB、金融規制緩和案公表(米銀にプラス→銀行株)
- ・オフィス空室率、機械受注、世界貿易等、引き続き堅調

今週のマイナス材料

- ・シリア情勢が緊迫化→原油価格上昇
- ・米フェイスブック問題、今後の展開いまだ見えず

今週の日経平均は、引き続き一進一退の展開が続いたが、前週と比べると米中通商問題に関する懸念が少し後退、市場心理が少し回復して、米株価と歩調を合わせながら回復基調となった。

米中通商問題は、最近の株価を左右すると同時に上値を抑える重石となっている。今週は、米政権が楽観的な見通しや貿易戦争を想定していないなどの発言があり、一方の中国側は、習国家主席が市場解放方針を示すなど、歩み寄りを感じさせる1週間となった。シリアの化学兵器使用疑惑を巡り、欧米とロシアが対立し、懸念上昇から原油価格と資源株が上昇したが、市場心理的には米国の影響の方が大きかった。

業種別でみると、資源株、鉄・非鉄に加え、海運の上昇も目立ったほか、機械、電気機器、自動車なども久しぶりに強めの推移となった。さらに米FRBの金融緩和案と米金利上昇を受けて米銀株が上昇したこともあり、銀行・金融株も強めの推移となった。一方で、食品、医薬品、小売、陸運が下落、結果的に前週までと反対の動きとなった。

来週以降の見通し

★まだ安心できない中、徐々に決算相場へ

日経平均想定レンジ **20,000～22,000円**

来週以降の注目材料

- ・米通商政策に関する中国を含めた関連動向
- ・米朝首脳会談に関する報道
- ・通期決算発表: 19/3期会社予想利益が上振れするか
- ・米株価と原油価格の動き

リスク要因

- ・米政権の動き/関連報道
- ・北朝鮮動向
- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、引き続き米国発の動きに左右されながらも、徐々に決算発表への反応が出てきそうだ。

直近の市場心理に影響を与えてきた大きな要因は、米中通商問題、米フェイスブックとネット情報保護の問題、シリア情勢、北朝鮮動向などだが、いずれも来週すぐに結論が見える可能性は低い一方、関連報道や各国の政府高官の発言により株価や為替レートなどが影響を受ける展開はまだまだ続く可能性が高い。

既に小売や外食を中心とした2月/8月期決算企業の決算発表が始まっているが、売上高増は確保できても、人件費やシステム費用などのコスト増により減益/減益予想となった企業と、増益/増益予想を維持できた企業で明暗が分かれ、発表翌日に株価が大きく動いた銘柄も出ている。12日には輸出関連産業の筆頭として安川電機の決算発表もあった。3月期決算企業の決算発表が本格化するのは再来週後半からだが、例年であれば発表前に観測報道が出ることも多く、そういう意味では既に「決算相場」入りし始めているとも言えよう。最大の注目ポイントは19/3期会社予想が増益予想となる企業がどの程度出てくるのか、さらには株主還元引き上げに動く企業がどの程度出てくるかだろう。円高もあり、18/3期のように多くの企業が増益予想とはならない分、銘柄ごとに差が出る可能性が高そうな気がする。

次頁にコラム「徒然なるままに」

徒然なるままに

今週、日本最東端の南鳥島周辺海域で発見されていたレアアースが、その後の調査で世界需要の数百年分に相当することが分かったと発表された。資源の少ない日本には珍しい話題であり、商業生産に成功すれば画期的なことになるだろう。

具体的には、島の南方、日本の排他的経済水域 (EEZ) 内の約2500平方キロの範囲のレアアース埋蔵量が、約1600万トンにのぼるそうだ。特に濃度が高いエリアには約120万トンあり、これだけでも高性能電池に使われるジスプロシウムが世界需要の57年分もあり、他にもテルビウム、ユウロピウム、イットリウムなどが含まれているそうだ。しかも同時に、レアアース濃度を高める実験にも成功したそうだ。この技術を使えば鉱物を効率よく回収できるそうで、そうなると深海から採集するコストも低減させることができ、将来の商業生産の可能性も膨らむことになる。

レアアースとは、「レア (rare) = めったにない」というぐらいで、とても貴重な鉱物だ。ただ貴重なだけでなく、埋蔵量のほとんどが中国に存在することで入手が難しくなりやすい点も課題である。だから日本国内で調達できることができれば、本当に画期的なことだろう。もちろん、まだ調査段階なので、いつ頃に商業生産が可能なのかは現時点では分からない。でも資源の少ない日本にとり、とても希望が持てる明るい話題だと思う。

ところで「南鳥島」は馴染みの無い島である。本州から1800kmも離れている小島で、行政上は小笠原村に所属しているそうだ。民間人は住んでいないが、気象庁と国土交通省の地方支局 (関東地方整備局)、海上自衛隊が駐在している。物品補給や人員移動のために、自衛隊の輸送機が週1回往来しているそうだが、「交通困難地」指定があり、郵便物や宅配便は届かないそうである。なるほど。

そこでふと思った。尖閣諸島や沖ノ鳥島でなくてよかったなど。沖ノ鳥島も同様に遠く南方の小島であるが、中国などから「岩」ではないかと批判されるぐらい、陸上部分がとても小さい。しかし、南鳥島は面積も1.5平方キロあり、滑走路が設置されているれっきとした普通の島である。

リスクおよび手数料等の説明

株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円 (税抜) が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です
※ 各種書面の郵送交付には、年間1,000円 (税抜) をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定: 4月27日 (金) 17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第164号
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会